

四半期報告書

(第27期第3四半期)

自 平成25年10月1日

至 平成25年12月31日

株式会社ゴルフ・ドウ

さいたま市中央区上落合二丁目3番1号

表紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営上の重要な契約等	2
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	4
(2) 新株予約権等の状況	4
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	4
(4) ライツプランの内容	4
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	4
(6) 大株主の状況	4
(7) 議決権の状況	5

2 役員の状況	5
---------------	---

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	9
四半期連結包括利益計算書	10

2 その他	13
-------------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月12日
【四半期会計期間】	第27期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）
【会社名】	株式会社ゴルフ・ドゥ
【英訳名】	GOLF・DO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 伊東 龍也
【本店の所在の場所】	埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番1号
【電話番号】	（048）851－3111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 大井 康生
【最寄りの連絡場所】	埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番1号
【電話番号】	（048）851－3111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役 経営管理本部長 大井 康生
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所（セントレックス） （愛知県名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第26期 第3四半期連結 累計期間	第27期 第3四半期連結 累計期間	第26期
会計期間	自平成24年 4月1日 至平成24年 12月31日	自平成25年 4月1日 至平成25年 12月31日	自平成24年 4月1日 至平成25年 3月31日
売上高（千円）	3,461,553	3,348,366	4,423,387
経常利益（千円）	129,858	8,989	92,252
四半期（当期）純利益又は四半期純損失（△）（千円）	84,859	△40,369	24,625
四半期包括利益又は包括利益（千円）	90,667	△19,527	42,973
純資産額（千円）	574,431	506,973	526,737
総資産額（千円）	2,061,682	2,171,704	2,127,249
1株当たり四半期（当期）純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額（△）（円）	68.41	△32.55	19.85
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	27.9	23.3	24.8

回次	第26期 第3四半期連結 会計期間	第27期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年 10月1日 至平成24年 12月31日	自平成25年 10月1日 至平成25年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額（△）（円）	2.63	△39.87

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は、平成25年10月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期（当期）純利益金額を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、政府の経済政策への期待などで、円安の進行と株式市場の好転により景況感は改善傾向にあります。しかしながら、設備投資の意欲は鈍く、実体経済は確実な回復までには至っていない中で推移いたしました。

ゴルフ業界におきましては、国内の人気大型ブランドのモデルチェンジが発表され、多少の回復傾向はみられましたが、ゴルフ用品市場を大きく牽引するほどの影響はなく、一品単価の下落や一向に収まる気配のない価格競争が続いております。よって、表面的な売上は堅調に推移しているものの、業界全体の収益の悪化傾向が続いております（矢野経済研究所「Y S P ゴルフデータ」）。なお、経済産業省「特定サービス産業動態調査」におきましては、平成25年11月のゴルフ場／練習場の利用者数が前年同月比103.9%/99.3%と第2四半期連結累計期間に比べ2～3ポイント上昇し推移しております。

このような経営環境のもと当社グループでは、事業全体の成長戦略の柱として直営店の出店拡大に向け、「ゴルフドゥ！」ブランド認知度アップのためのラジオCM、店舗開発本部の新設、来期新卒者の大量採用活動などに先行投資を行って参りました。また、直営事業では既存顧客の囲い込みや新規顧客獲得に販促費を投入し、売上獲得に向かいましたが、結果として収益を圧迫する厳しい状況が続いております。営業販売事業では、受注金額に回復傾向がみられるものの、引き続き前年から大幅な売上減となりました。なお、スクエアツウ・ジャパン株式会社、The Golf Exchange Inc.に係るのれんは事業計画を見直した結果、株式買収時に想定していた収益が見込めないと判断し、減損損失として26百万円の特別損失を計上しております。また、繰延税金資産を取り崩し、法人税等調整額を11百万円計上しております。店舗につきましては、直営事業において平成25年4月に1店舗、10月に都市型小規模店を1店舗出店いたしました。フランチャイズ事業におきましては、平成25年5月に3店舗閉店、9月に1店舗移転リニューアル、そして10月には新規加盟による練習場パッケージ2号店が出店となりました。平成25年12月末日現在の営業店舗数は全国で合計74店舗となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は売上高が33億48百万円（前第3四半期連結累計期間34億61百万円）、営業利益が11百万円（同1億31百万円）、四半期純損失は40百万円（前第3四半期連結累計期間は四半期純利益84百万円）となりました。

セグメント別の状況は以下のとおりであります。

① 直営事業

当第3四半期連結累計期間におきましては、4月と10月に新規出店を行いましたことにより、当第3四半期連結累計期間の売上高前年比は108.2%と増収となりました。また、スーパーバイザー制度を復活させた新体制のもと既存店の予算達成のための行動計画を推進し、認知度向上と新規顧客獲得に向けたラジオCM、既存顧客の囲い込みに販促費を投入いたしました。しかしながら、販売・買取りともに競合各社との価格競争によって収益を圧迫する厳しい状況が続きました。

その結果、直営事業の売上高は21億35百万円（前第3四半期連結累計期間19億73百万円）となりました。また、セグメント利益は95百万円（同1億28百万円）となりました。

② フランチャイズ事業

当第3四半期連結累計期間においては、平成25年5月中旬にエリアフランチャイズ加盟企業の方針変更に伴い、小規模店舗が3店舗閉店しましたが、10月に新規加盟による練習場パッケージ2号店が売上に寄与し、当第3四半期連結累計期間の売上高前年比は102.1%と増収となりました。しかしながら、計画通りのロイヤリティ収入を確保するまでには至らず、セグメント利益前年比は97.1%となりました。

その結果、フランチャイズ事業の売上高は2億90百万円（前第3四半期連結累計期間2億84百万円）となりました。また、セグメント利益は1億21百万円（同1億24百万円）となりました。

③ 営業販売事業

当第3四半期連結累計期間におきましては、売上高前年比は76.7%となり減収、セグメント損失も6百万円となり減益となりました。その大きな理由といたしましては、平成24年暮れ以降の急激な円安により輸入商材の割安感が無くなったこと、そして今期の新商品には昨期ほどのヒット商品が無く取引先からの受注が大幅に減少いたしましたことが挙げられます。売上高は期初からの販売方針変更や販売商材を見直したことから第2四半期連結累計期間の売上前年比と比べ4ポイントほど回復して参りました。

その結果、営業販売事業の売上高は9億22百万円（前第3四半期連結累計期間12億3百万円）となりました。
また、セグメント損失は6百万円（同利益55百万円）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	4,400,000
計	4,400,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数（株） （平成25年12月31日）	提出日現在発行数（株） （平成26年2月12日）	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,311,300	1,311,300	名古屋証券取引所（セントレックス）	単元株式数 100株
計	1,311,300	1,311,300	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年 月 日	発行済株式 総数増減数 （株）	発行済株式総 数残高（株）	資本金増減額 （千円）	資本金残高 （千円）	資本準備金増 減額（千円）	資本準備金 残高（千円）
平成25年10月1（注）	1,298,187	1,311,300	—	501,320	—	178,372

（注）平成25年10月1日付けで1株を100株に分割致しました。これにより発行済株式総数が1,298,187株増加しております。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしています。

① 【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 709	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 12,404	12,404	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	13,113	—	—
総株主の議決権	—	12,404	—

② 【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 （%）
株式会社ゴルフ・ドゥ	埼玉県さいたま市 中央区上落合二丁目 3番1号	709	—	709	5.40
計	—	709	—	709	5.40

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	253,818	309,734
受取手形及び売掛金	213,567	212,335
商品	947,867	958,581
繰延税金資産	38,562	27,933
その他	40,992	67,516
貸倒引当金	△1,781	△1,650
流動資産合計	1,493,026	1,574,450
固定資産		
有形固定資産	205,204	208,786
無形固定資産		
のれん	39,322	—
その他	35,539	34,907
無形固定資産合計	74,861	34,907
投資その他の資産		
投資有価証券	14,481	18,157
敷金及び保証金	154,035	159,599
建設協力金	140,983	133,304
繰延税金資産	1,309	1,467
その他	45,514	43,200
貸倒引当金	△2,167	△2,167
投資その他の資産合計	354,157	353,560
固定資産合計	634,223	597,254
資産合計	2,127,249	2,171,704
負債の部		
流動負債		
買掛金	283,766	209,297
短期借入金	261,419	301,090
1年内返済予定の長期借入金	219,066	229,364
未払法人税等	14,874	3,172
賞与引当金	20,179	11,789
ポイント引当金	21,402	22,491
その他	110,772	131,412
流動負債合計	931,481	908,617
固定負債		
長期借入金	487,092	552,825
繰延税金負債	6,029	7,092
退職給付引当金	103,267	117,998
資産除去債務	28,341	32,898
その他	44,300	45,300
固定負債合計	669,031	756,113
負債合計	1,600,512	1,664,730

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	501,320	501,320
資本剰余金	178,372	178,372
利益剰余金	△140,620	△181,226
自己株式	△23,625	△23,625
株主資本合計	515,447	474,841
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,523	1,151
為替換算調整勘定	13,813	30,980
その他の包括利益累計額合計	11,290	32,131
純資産合計	526,737	506,973
負債純資産合計	2,127,249	2,171,704

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	3,461,553	3,348,366
売上原価	2,313,122	2,215,471
売上総利益	1,148,430	1,132,895
販売費及び一般管理費	1,017,030	1,121,197
営業利益	131,399	11,697
営業外収益		
受取利息	2,365	2,493
受取手数料	2,183	2,378
為替差益	3,554	2,249
その他	1,436	204
営業外収益合計	9,540	7,325
営業外費用		
支払利息	10,242	9,653
その他	839	380
営業外費用合計	11,081	10,034
経常利益	129,858	8,989
特別損失		
減損損失	—	26,214
特別損失合計	—	26,214
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失 (△)	129,858	△17,225
法人税、住民税及び事業税	42,560	11,559
法人税等調整額	2,438	11,584
法人税等合計	44,998	23,143
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	84,859	△40,369
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	84,859	△40,369

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失 (△)	84,859	△40,369
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,730	3,675
為替換算調整勘定	8,539	17,166
その他の包括利益合計	5,808	20,841
四半期包括利益	90,667	△19,527
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	90,667	△19,527

【注記事項】

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※減損損失

当第3四半期累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日）

当第3四半期連結累計期間において、当社グループは以下の資産について減損損失を計上しております。

用途	種類	場所	減損損失（千円）
－	のれん	－	26,214

スクエアツウ・ジャパン株式会社 The Golf Exchange Inc.に係るのれんについて、取得時に検討した事業計画において、当初想定していた収益を見込めなくなったことから、帳簿価額全額を減額しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	34,161千円	34,613千円
のれんの償却額	13,107	13,107

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	直営	フランチャイズ	営業販売	合計
売上高				
外部顧客への売上高	1,973,599	284,573	1,203,381	3,461,553
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	1,973,599	284,573	1,203,381	3,461,553
セグメント利益	128,589	124,671	55,946	309,206

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	309,206
のれんの償却額	△13,107
全社費用（注）	△164,700
四半期連結損益計算書の営業利益	131,399

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	直営	フランチャイズ	営業販売	合計
売上高				
外部顧客への売上高	2,135,359	290,412	922,594	3,348,366
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	2,135,359	290,412	922,594	3,348,366
セグメント利益又は損失(△)	95,151	121,071	△6,311	209,910

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	209,910
のれんの償却額	△13,107
全社費用（注）	△185,105
四半期連結損益計算書の営業利益	11,697

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

のれんについて、26,214千円の減損損失を計上しております。減損損失の概要につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（四半期連結損益計算書関係）」をご参照ください。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)	68円41銭	△32円55銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△) (千円)	84,859	△40,369
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△)(千円)	84,859	△40,369
普通株式の期中平均株式数(株)	1,240,400	1,240,400
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変更があったものの概要	—	

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は平成25年10月1日付けで株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月7日

株式会社ゴルフ・ドゥ

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 松 本 保 範 印
業 務 執 行 社 員

指定有限責任社員 公認会計士 瀬 戸 卓 印
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ゴルフ・ドゥの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ゴルフ・ドゥ及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。